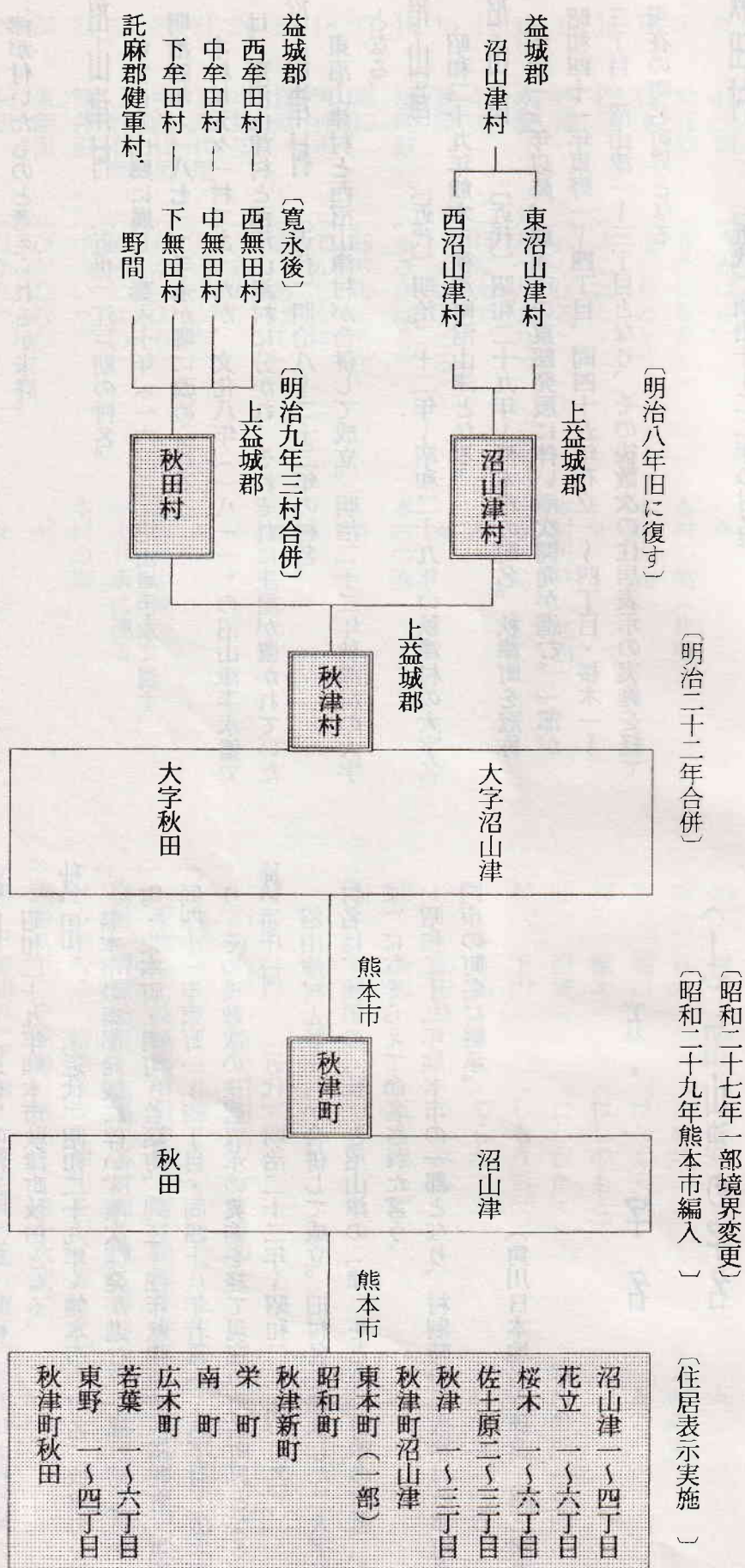


この校名は、万葉歌人「柿本人麻呂」の
「東の 野にかぎろいの 立つ見えて かへり見すれば月傾きぬ」

五 地 名

五・一村名・町名の移り変わり



〔昭和二十七年一部境界変更〕
 〔昭和二十九年熊本市編入〕

〔住居表示実施〕

沼山津

地名の沼山は湿地の林または野林の意と思われ、これに舟着場を指す津が付いたものと考えられるが未詳。

沼山津村

〔近世〕江戸期の村名。

中古は木山郷に属し、寛永十年（一六三三）沼山津手永に属す。

明治四年（一八七二）手永が郷に改められる。

本村は元々一村であったが、文化八年（一八一）の沼山津手永鑑では、東沼山津村と西沼山津村に分かれ、それぞれに庄屋が置かれていた。

沼山津村

〔近代〕明治八～二十二年の村名。

東沼山津村と西沼山津村が合併して成立。明治二十二年秋津村の大字となる。

沼山津

〔近代〕明治二十二年～昭和二十九年の秋津村の大字名
昭和二十九年熊本市秋津町沼山津となる。

沼山津

〔近代〕昭和二十九年～熊本市の町名。秋津町を冠称

昭和三十年以降、熊本市の東部発展に伴い漸次開発が進む。一部が昭和四十一年東野一～四丁目、同四十五年花立一～四丁目・桜木一～三丁目・沼山津一～三丁目となり、その後数次の住居表示の実施を経て現在の町名町界となる。

秋田村

〔近代〕明治十～二十二年の村名。

上益城郡のうち。中無田村・西無田村・下無田村と託麻郡健軍村のうち野間が合併して成立。同二年秋津村の大字となる。

中古元西牟田村・中牟田村は木山郷、元下牟田村は甘木荘に属し、

寛永十年（一六三三）西牟田村・中牟田村は沼山津手永に、下牟田村は鯉手永に属す。

明治四年（一八七二）手永が郷に改められる。同八年（一八七五）下牟田村を沼山津郷に編入す。三村とも寛永後「牟田」の字を「無田」に用いる。

秋田

〔近代〕明治二十二年～昭和二十九年の秋津村の大字名
昭和二十九年熊本市秋津町秋田となる。

秋田

〔近代〕昭和二十九年～熊本市の町名。秋津町を冠称

熊本市の東部発展に伴い、漸次開発が進む。一部が昭和三十一年栄町・東本町・南町・若葉町、同三十四年秋津新町・昭和町・東原町・同四十一年東野一～四丁目・同四十八年若葉一～六丁目・広木町となり、その後数次の住居表示の実施を経て現在の町名町界となる。

秋津村

〔近代〕明治二十二年～昭和二十九の村名。

沼山津村と秋田村が合併して成立。旧村名を継承した二大字を編成。村名は、秋田の「秋」と沼山津の「津」をとり、日本の古名「あきつしま」になぞらえて命名された言う。

昭和二十九年熊本市の一部となり、村制時の二大字は秋津町を冠称。同市の町名に継承。

〔角川日本地名大辞典 四三熊本県〕

五・一 字 名

（一） 沼山津の字々名

東は上益城郡廣崎村（現益城町広崎）、西は同郡秋田村、南は同郡島田村（現益城町島田）、北は託麻郡健軍村（たけみやむら）各耕地を以て界とす。

東西十七丁四十間、南北三十一丁。

注・字中津代里千七百七十一番堂床前・西小路地蔵の角（現在の沼山津三丁目一三番七号）の沼山津村元標基準

（字番号）（字名）

（ふりかな）

（位置）

（字番号）（字名）

（ふりかな）

（位置）

田村を沼山津郷に編入す。三村とも寛永後「牟田」の字を「無田」に用いる。

(字番号)	(字名)	(ふりかな)	(位置)
1	筒井久保	(つついくぼ)	本村の良(北東)
2	竹内	(たけうち)	本村の北
3	古閑前	(こがのまえ)	々
4	杉本	(すぎのもと)	々
5	境峠	(さかひたうげ)	々
6	古閑久保	(こがのくぼ)	々
7	上古閑久保	(かみこがのくぼ)	々
8	佐土原	(さどはら)	々
9	北花立	(きたはなたて)	本村の乾(北西)
10	桜木	(さくらのき)	本村の北
11	横畠	(よこばた)	々
12	西原	(にしはる)	本村の乾(北西)
13	水溜	(みづたまり)	々
14	花立	(はなたて)	々
15	鶯原	(うぐいすばる)	々
16	須崎原	(すぎきばる)	本村の西
17	堀口	(ほりのくち)	々
18	天神木	(てんじんぎ)	々
19	貝原	(きやあばる)	々
20	小無田	(こむた)	々
21	下津代里	(しもつより)	々
22	中津代里	(なかつより)	本村の中央
23	上津代里	(かみつより)	々より東に連る
24	筒井田	(つついだ)	本村の東
25	東無田	(ひがしむた)	々
26	長田	(ながた)	々
27	上内	(かみうち)	々

(字番号)	(字名)	(ふりかな)	(位置)
28	樋口	(ひのくち)	本村の巽(南東)
29	大城町	(おほしろまち)	々
30	名守	(なもり)	々
31	兵糧田	(ひようろうた)	々
32	戸井手	(といで)	々
33	奥分	(おくぶん)	々
34	堀切	(ほりきり)	本村の南
35	保手本	(ほてのもと)	々
36	日焼	(ひやけ)	本村の南
37	橋口	(はしぐち)	々
38	橋本	(はしのもと)	々
39	西無田	(にしむた)	本村の坤(南西)
40	下内	(しもうち)	々
41	寺田	(てらだ)	本村の坤(南西)
42	圖志分	(づしぶん)	本村の南
43	萩原	(はぎはら)	々
44	計路	(けろ)	本村の坤(南西)

(2) 秋田の字々名

東北は上益城郡沼山津村、南は同郡井寺村(現嘉島町井寺)・六嘉村(現嘉島町下六嘉)各耕地を以て界し、西は託麻郡健軍村(たけみやむら)耕地及び江津川を以て界とす。
東西八丁二十四間、南北八丁四十六間。
注・字野間原二千四十六番宅地の前(現在の秋津一丁目二番二〇号付近)の秋田村元標基準

(字番号)	(字名)	(位置)
1	一口	本村の南
2	碩下	々
3	中道下	本村の坤(南西)
4	上道下	本村の南
5	間島	々
6	土手下	本村の坤(南西)
7	佐分浦	々
8	烏飼	本村の西
9	穴無田	々
10	鷺場	々
11	筏場	々
12	棚田	々
13	中須	々
14	居屋敷	々
15	西原	々
16	東原	本村の乾(北西)
17	北原	々
18	南水溜	本村の北
19	宅地	本村の北
20	西六反	々
21	水溜	々
22	六反	本村の良(北東)
23	堀割	々
24	北境塚	々
25	境塚	々
26	鷺原	々
27	中原	本村の良(北東)

(字番号)	(字名)	(位置)
28	出口	本村の良(北東)
29	上ノ丁	本村の東
30	下ノ丁	々
31	野間原	本村の中央
32	前塘元	本村の巽(南東)
33	塘下	本村の東
34	上横道上	々
35	上道上	々
36	三官屋敷前	本村の巽(南東)
37	月輪	々
38	計路	々
39	井寺鶴	々
40	井寺道下	々
41	間島前	本村の南
42	古屋敷	々
43	杉下	々
44	南一口	々
45	一番割	々
46	二番割	々

(熊本市史 別編 第二卷)

五・三 字名の分類

地名は「言語による地名・地形による地名・災害による地名・宗教による地名・民俗による地名・歴史による地名・開拓による地名・軍事による地名・宗教と民俗の複合による地名」などに分類されるが、秋津地区の地名について「熊本地名研究会の松野国策氏」は次の様に分類されている。
(1) 類似地名による分類 (熊本地名研究会 松野國策)

	秋 田 村	沼 山 津 村
1	鶯原・北原・東原・中原・西原	鶯原・貝原・萩原・佐土原・西原
2	穴無田・佐分浦・野間原	西無田・東無田・小無田
3	水溜・南水溜	水溜
4	宅地・居屋敷・古屋敷・三官屋敷前	天神木
5	計路	計路
6	堀割・一の口・南一の口・出口	堀切・堀口・樋口(火口)・橋口
7	境塚・北境塚	境峠
8	上横道上・上道上・中道下・上道下・井寺道下・井寺鶴	上津代里・中津代里・下津代里・上内・下内・橋本(橋の下)
9	棚田	兵糧田・寺田・長田
10	杉下	杉本(杉の元)桜木
11	間島・間島前	
12	塘下・前塘元・土手の下・	上古閑久保・古閑久保・古閑前
13	西六反・六反	花立・北花立
14	中須・一番割・二番割・上丁・下丁	筒井田・筒井久保・竹内・横畠・桜木
15	筏場・鶯場・月の輪	大城町・名守・図志分(図師分)・保手本(本手の下)・奥分・戸井手

(2) 形態による分類

		秋田村	沼津村
地形地名 (自然地名)	鷺原・北原・東原・中原・西原・杉下・中須・穴無田 鳥飼・鷺場・佐分浦・水溜・南水溜・計路・野間原・間島	鷺原・佐土原・貝原・萩原・西原・上古閑久保・ 古閑久保・古閑前・花立・北花立・桜木・筒井久保・筒井田 西無田・東無田・小無田・竹の内・杉本・水溜・計路	
開拓地名	堀割・一の口・南一の口・出口・一番割・二番割・上ノ丁 下ノ丁・棚田・北境塚・境塚・西六反・六反・碓下 間島前・塘下・井寺鶴・井寺道下・上横道上・上道上 月の輪	堀切・堀の口・火口・長田・横田・境峠・戸井手 保手本・上内・下内・橋本・橋口・ 上津代里・中津代里・下津代里	
社会地名	宅地・居屋敷・古屋敷・三官屋敷前	天神木	
宗教地名		兵糧田・寺田・図志分・名守・大城町・奥分	

五・四 呼び名

地名には、「字名」の下に「下名(さげな)・呼び名・門名」がある。
坂や堀の一つ一つに畑一枚にいたるまで呼び名が付けられ、地元の人々に古くから伝わり親しまれている。
しかしこれら「呼び名」も環境の変化等に伴い、いつのまにか忘れられたり消滅してしまうものも少なくない。
秋津地区に残っている呼名には次の様なものがあり、人々の営みぶり等を如実に表している。

(調査・平成五年度郷土史講座生 沼山津地区 水上則弘・中無田地区 小田邦秀・西無田地区 矢田 剛)

上沼山津地区	
会所跡 (かいしよあと)	裏門 (うらもん)
舟場 (ふなば)	外村 (ほかむら)
出屋敷 (でやしき)	川端 (かわばた)
堂ノ前 (どおんまい)	上ノ寺 (かみのてら)
	馬神さん (うまがみさん)
	標ノ木 (しめのき)
	五百間 (ごひゃくけん)
	東小路(ひがししゅうじ) やげん堀(やげんぼり)
下沼山津地区	
貝原 (きやあばる)	野林山 (のばしのやま)
洲崎 (すさき)	下ノ寺 (しものてら)
	小無田 (こむた)
	たんたん落し
	中小路 (なかしゅうじ)
	屋敷田 (にししゅうじ)

貝原 (きやあはる) ・野林山 (のばしのやま) ・小無田 (こむた) ・中小路 (なかしゅうじ) ・西小路 (にししゅうじ)
洲崎 (すさき) ・下ノ寺 (しものてら) ・たんたん落し ・屋敷田

桜木地区

追分 (おいわけ)
堂面 (どうめん)

・五郎堀 (ごろうぼり)

・東脇

(ひがしわき)

・宮ノ前

(みやんまえ)

・花立往還

中無田地区

えづ原

(えづばる)

・やんぼし塚

・くぼ

(ななみち)

・うっぱげ

(しもんしゅうじ)

・西のちようもん

中通

(なかどおり)

・上ノ小路 (かみのしゅじ)

・中道

(でぐち)

・下ノ小路

(みずたまり)

・出小屋 (でこや)

横道

(よこみち)

・野間ノ原 (のまんはる)

・出口

(でぐち)

・水溜

(みづたまり)

・堀割

西無田地区

神屋敷

(かみやしき)

・新屋敷 (しんやしき)

・水神さん (すいじんさん)

・鬼塚 (おにづか)

(御見塚)

・二方塚

(にほうづか)

かわたて

・すいじんぼり

・江津湖んはた

・うらいでんはた

五・五 地々口考察

天神木 (てんじんぎ)

沼山津の字番号 (字図) 一八番の字名

ここには社も鳥居も無くただ住宅に囲まれた畑の中に、天神塚という直径一・五メートルほどの塚がボツンとあるだけである。もとは大きかったが次第に削られて畑になってしまい、持主は早く削って宅地か畑にしたいが、代々触れば祟ると言われ残していると言う。

『上益城郡誌』に「秋津小学校敷地の字名なり。往古天神丸と言う船入航して此の地の樹に繋ぎしより起こると」とあり、地名を船名に由来させている。

しかし触れば祟るとの言い伝えのなかに古い天神信仰がうかがわれる。

さんくわん やしきま

二二官日屋敷前

秋田の字番号 三六番の字名

『上益城郡誌』には次のように記されている。

「秋津村計路川の北岸所謂無田中の一小字也。

該地方その他中無田村の屋敷跡何々の屋敷と唱ふ地あるより推すときは此地現今は無田地として到底屋敷とすることは能はざるも、或時は家宅

を構えしことありしを想像し得べし。

往時海底は変じて陸地となるや東部山中の諸川は無田の低部を貫流し従って貝原地方の住民は南進して其の川岸近く進み、加藤公入国して治水事業に熱中され木山川流域を北に、屋形川は南より当地方に引落し、西方江津に築堤し緑川を御船川に合わせたるより俄に氾濫の害を受くるに至り、一朝増水して此地方は忽ち湖観を呈し農民をして辛苦を水泡に帰せしむること往々あり。

殊に其の後川尻大麻塘の築工は惨禍を一層甚しからしむるに至り、全部屋敷を挙げて転居するに至れり。

中無田村の今の地に移りしは天和年間(一六八一〜一六八三)なりと言えは新村・東無田等の部落も相先後して転居し、慶長(一五九六〜一六一四)の頃迄は四五百年此の地に屋敷を有せしものの如し。

秋津村 三官氏塚 中無田村三藤氏の屋敷内にありしを百年前墓地に移す。」中国では、「三官」は三男のことか。

三官屋敷は三男が管理していた中国貿易の支社的な屋敷か？

何れにしろ、江津塘築堤後の天和年間（一六八一〜一六八三）に集落こぞって移住した中無田の旧宅地であった。

十口屋敷敷（ふるやしき）

秋田の字番号 四二番の字名

中無田や東無田と相前後して集落こぞって移住した下無田（六嘉村の一部であった）の旧宅地跡で、名称で昔の名残りを水田の中にとどめている。転住先の集落を「新村又は上り（あがり）無田」と呼ばれていた。現在の秋津新町はこの「新村」に繋がる町名では。

計政路（けろ）

沼山津の字番号 四四番の字名

秋田の字番号 三八番の字名

数百年来荒れに荒れていた所を文化六・七年（一八〇九・一八一〇）に田開きがなされ、それを感謝して天保六年（一八三五）に中無田石塔水神が建立されているが、その碑文に「そもそも きよろ と申し来たり……」と記されている。

「きよろ きよろ」と川筋が雨の度に変わる、流路移動を行うところからきているのか。

笹伐田場（いかだば）秋田の字番号 一一番の字名

直径二十センチ、長さ約三センチの丸太を五・六本のかづらで組み合わせ作ったものを筏と言っていた。明治の後期（一九〇〇〜一九一〇）頃まではこの筏を利用して、往来していたと伝えられており、当時の住民にとっては重要な水上の交通機関の一つでもあった。

筏は西無田集落の西側につけていたが、この筏のつく周辺の田んぼを筏のつく場所ということで「筏場」と名付けた。現在もその名は水田の一面に存在している。

屋敷敷田（やしきた）（別名一丁八反とも云う）下沼山津の呼び名

中無田や下無田（新村）と相前後して集落こぞって転居した東無田の旧宅地跡で、名称で昔の名残りを水田の中にとどめている。

神日屋敷敷（又は宮屋敷）

西無田の呼び名

西無田の東北隅、現在の矢田氏方の東方、浮島熊野神社の神霊を分祀して西無田雨宮神社が創建された所。後年遷宮されて現在地に鎮座して

いることから、創建地を神屋敷又は宮屋敷と呼んでいる。

△云々所跡 上沼山津の呼び名

熊本藩では地方（じかた）の行政区画として郡と村の中間に手永が置かれ、手永の長を「惣庄屋」と云い、手永の役所を会所と称した。沼山津には、寛永十年から寛政十年（一六三三〜一七九八）まで、又天保十四年から明治三年（一八四三〜一八七〇）の廃止まで前後百九十二年沼山津手永の会所が置かれていた。明治三年会所廃止以降に呼び始めた呼び名であろう。

裏門・門前・仕事場 上沼山津の呼び名

会所の施設に関係するそれぞれの呼び名であろう。

上ノ土寸（かみのてら） 上沼山津の呼び名

上津代里の光輪寺のことを「沼山津の上の寺」と呼んでいた。

下ノ土寸（しものてら） 下沼山津の呼び名

下津代里の淨福寺のことを「沼山津の下の寺」と呼んでいた。

標ノ木（しめのき） 上沼山津の呼び名

沼山津と広崎境界付近を標ノ木と言っていた。

道祖神などの境界神を祀つたり、しめ縄を張って道切りをしたりするムラ人の意識の中のムラ境すなわち生活空間としてのムラの内と外の境界地名としてとりあげられている。（熊本の民俗地名―ムラの内と外―大塚正文）

託麻麻塘（現在の江津塘）

西無田集落より約千センチ西方地点に託麻塘（現在の江津塘）と呼ぶ堤防がある。この堤防は加藤清正が築いたもので、上益城郡と飽託郡との境界の塘ということから、当時の人々は託麻塘と呼んでいた。

御日兄塚（通称鬼塚）

西無田集落の西方に御見塚（通称鬼塚）と言う小高い塚がある。

託麻塘（現在の江津塘）の堤防工事の際、その状況をこの鬼塚より清正公が眺望になったと云う伝説があつて今なおその名は人々の間で使われている。

（語りベ学習会）